

「いちほまれ」栽培管理情報

令和4年7月

嶺南振興局農業経営支援部、JA若狭基幹支店

1. 生育状況 (7月5日調査)

管内生育調査圃

	移植日	草丈(cm)	茎数(本/㎡)	葉色
本年	5月11日	64.4	725	3.8
平年	5月19日	52.1	518	4.2

【生育の特徴】

- ・ 草丈長く、分けつは多い。
- ・ 葉色は平年よりやや淡い。
- ・ 生育ステージは平年に比べやや早い。

【生育の目安】 ※5月20日頃移植の場合

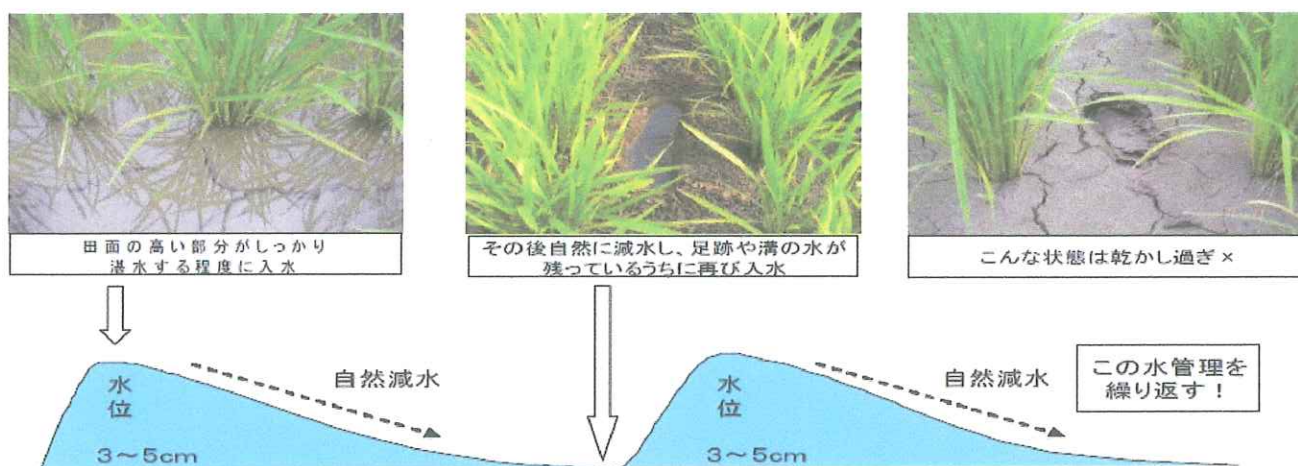
幼穂形成期	出穂期	成熟期
7月15日～18日	8月5日～7日	9月15日～20日

2. 水管理

(1) 中干し後～幼穂形成期～穂ばらみ期(出穂10～7日前)～出穂期(間断通水)

間断通水で酸素と水分の供給を交互に繰り返す。

- ・ 根の発育を促し、根の活力を維持し、養分などを盛んに吸収できるようにし、出穂期以降の登熟や下葉の枯れ上がり防止、倒伏防止につながる。
- ・ 水不足は幼穂伸長にも影響するため、圃場を乾燥させないことが重要。



※間断通水とは

浅水程度に水を入れ、水が無くなってもすぐに水を入れず、1～2日待って再び浅水程度に水を入れる。これを繰り返すことで土が固まる。

(2) 出穂期～出穂後 20 日間（浅水管理）

浅水の湛水管理を 20 日間実施する。

- ・ 出穂後はイネの根の老化が始まる。
- ・ 浅水の湛水管理を 20 日間実施してイネの葉色を保つことで登熟を順調に促し、白未熟米を防止する。

(3) 出穂後 20 日間～刈取り 5～7 日前（間断通水）

コンバイン収穫のために早期落水をすると、収量、品質とも低下する。

- ・ 最後まで確実に収穫 5～7 日前まで間断通水を実施する。

3 施肥管理

- ・ 今後、一括肥料（エコいち）の穂肥分が出始め、葉色が濃くなってくる時期だが水がないと、肥効の発現が抑えられるので、幼穂形成期からは土を乾かさないようにする。
- ・ 基肥一括肥料は追肥をしないのが基本であるが、施用量が少ないなどの理由で葉色が濃くならず、幼穂形成期頃に葉色が 4.0 以下の場合には追肥を行う。

施用時期： 7 月中旬

施肥量： エコ追肥で 10～13 kg/10a

4 水田周辺雑草地や畦畔の草刈り

- ・ 畦畔や雑草地の草刈りは、6 月中旬～早生の出穂の 10 日前までに 2 回程度実施する。
- ・ 薬剤防除は無人ヘリ防除の他、斑点米の多発が予想される場合は収穫の 7 日前までに仕上げ防除を行う。

6 月中旬・7 月上旬は、畦畔一斉草刈り実践デー
地域ぐるみの草刈りでカメムシの生息密度を減らしましょう。

5 とりこぼし雑草対策

- ・ 雑草の取りこぼしがある場合は、雑草の種類や・大きさを見極めて、適切な後期除草剤を選択する。

雑草の種類	除草剤	効果のある雑草の大きさの限界
ヒエ	クリンチャー 1 キロ粒剤	4 葉期（1.5kg/10a 散布では 5 葉期）
	トドメ MF 1 キロ粒剤	5 葉期
広葉雑草	バサグラン粒剤 （落水散布）	ホタルイ：20cm、クログワイ：15cm コナギ：ハート形葉出る直前 オモダカ：矢尻葉出る直前
	バサグラン液剤 （落水散布）	ホタルイ：30cm、クログワイ：30cm コナギ：ハート形葉出始め オモダカ：矢尻葉 4～5 枚